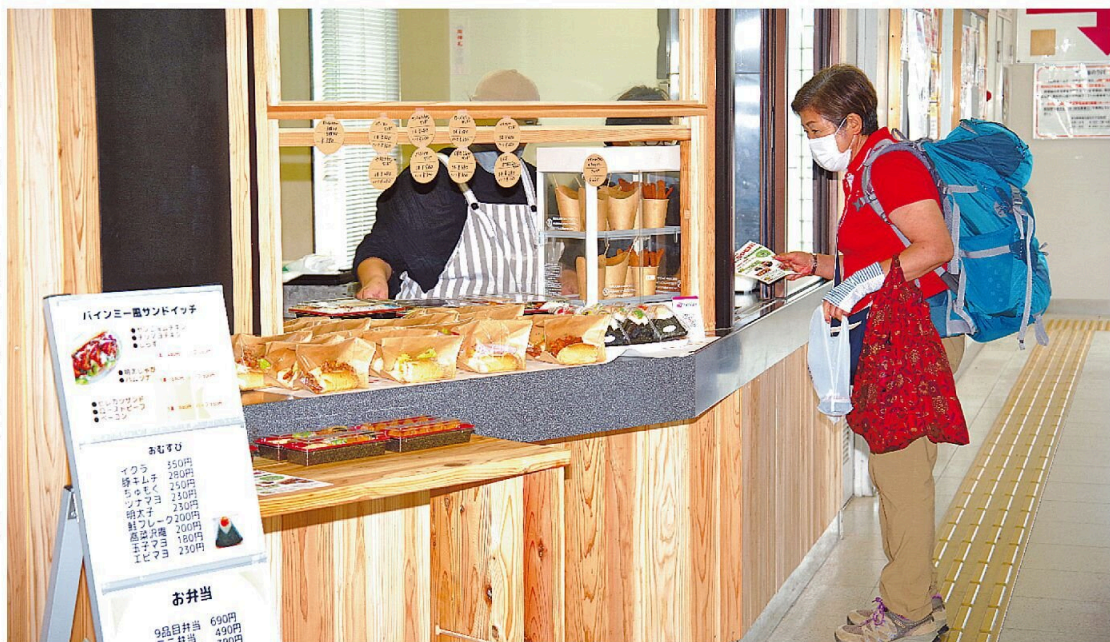


井原鉄道総社駅（総社市駅前）の改札周辺  
が、テナントスペースと憩いの場「ADOR  
IBA（アドリバ）」としてリニューアルさ  
れた。テナントの運営は、誰でも短期間の出

店ができるポップアップストア（期間限定店  
舗）方式を採用。駅を核としたにぎわい創出  
につなげるとともに、地域に新たな事業を生  
み出す場としても活用する。（寺尾彰啓）

## 井原鉄道総社駅 改札周辺リニューアル



駅長室を改装した店舗部分。4時間単位でレンタルできる

# テナントスペース登場

## 4時間ごと貸し出し にぎわい創出狙う

井原鉄道は同駅を2010年4月に無人化した。駅には長年、JR側も含めて売店がない状態が続いており、市内のまちづくり会社「縁社屋」が、元駅長室を販売店舗として貸し出すアイデアを提案。2022年度の市の市民提案型事業に採択され、準備を進めていた。

テナントスペース（15平方メートル）は4時間ごとの時間貸しで、1枠2500円。現在2団体が利用し、このうち市内の弁当店は、月、水、木、金曜日の帰宅ラッシュを迎える午後3〜7時を中心に弁当やおむすび、サン

## 待合は木材使う憩いの場

ドイツなどを販売している。改札周辺の待合スペースは、憩いの場と位置付けて一新した。県立大建築学科の畠和宏助教がデザイン。ベンチや外装に県産のスギ材をふんだんに使い、木のぬくもりを感じられる空間に仕上げた。ベンチは上から見ると同鉄道のロゴマークになっており、中心の木オブジェは枝に井原線各駅の名が刻まれている。

縁社屋の安達勝利代表は「今まで寂しかった市の顔である駅が新しい形に変わった。応援してほしい」と話している。出店の問い合わせは縁社屋（090-6419-1402）。



木材をふんだんに使い、イメージを一新した井原鉄道総社駅の「ADORIBA」

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。